

第2章 都市の現況動向の把握

1. 広域条件

(1) 位置

本市は山形県の最北東に位置し、東方は、御所山連峰のある奥羽山脈で宮城県に接し、南は、柴倉山、甕岳を結ぶ標高1,000m以上の山岳地帯を境にして東根市、村山市、宮城県仙台市に接し、西はJR奥羽本線にて大石田町に接しています。東側では宮城県加美町、北側では最上町、舟形町に接します。

山形市を中心とした村山地域に位置し、東根市、村山市、大石田町とともに、北村山圏を形成しています。

市域の西側を広域幹線道路である国道13号と東北中央自動車道が縦断し、国道347号が横断しています。

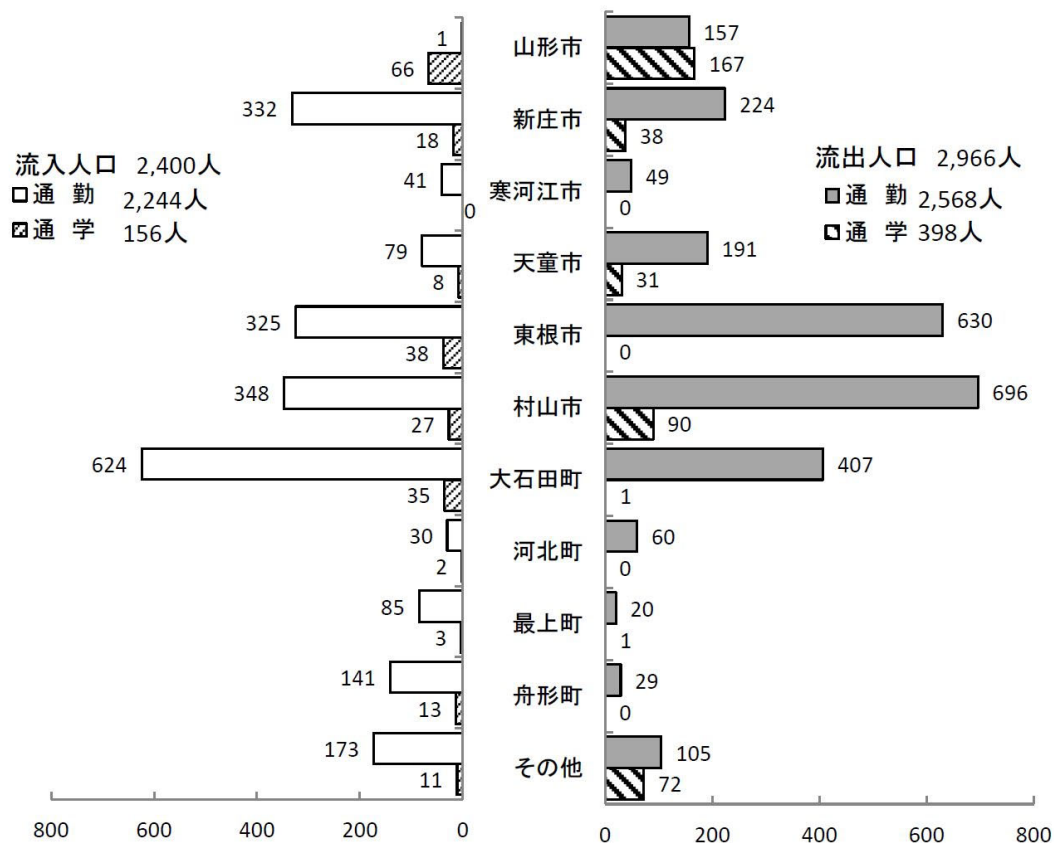


図 本市の位置

(2) 人口流動

通勤・通学ともに流出超過となっています。通勤では、流出・流入先ともに北村山圏内の市町が中心となっています。北村山圏外の市町では、流入先は新庄市が多く、流出先は新庄市、天童市、山形市が多くなっています。通学では、流入先は山形市が66人と多く、次いで北村山圏内の3市町が38、35、27人と続きます。流出先は、山形市が167人と多く、村山市が90人で続きます。

【通勤・通学による他市町村からの流入及び他市町村への流出(15歳以上)人口】



(資料:平成27年国勢調査)

図 通勤・通学における流出入先

(3) 経済動向

下図は、北村山圏4市町における産業分類別1人あたり総生産を、山形県全域における1人あたり総生産を1とした場合における値をレーダーチャートとして示したものです。

東根市は公務、鉱業、製造業が高くなっていることを除けば、圏域内の4市町の傾向は類似しています。

尾花沢市は、農林水産業の値が非常に高く、山形県下において農林水産業が盛んな市であることがわかります。北村山圏4市町の中でも最も高い値となっています。一方、金融・保険業、運輸・郵便業、鉱業が極端に低くなっています。

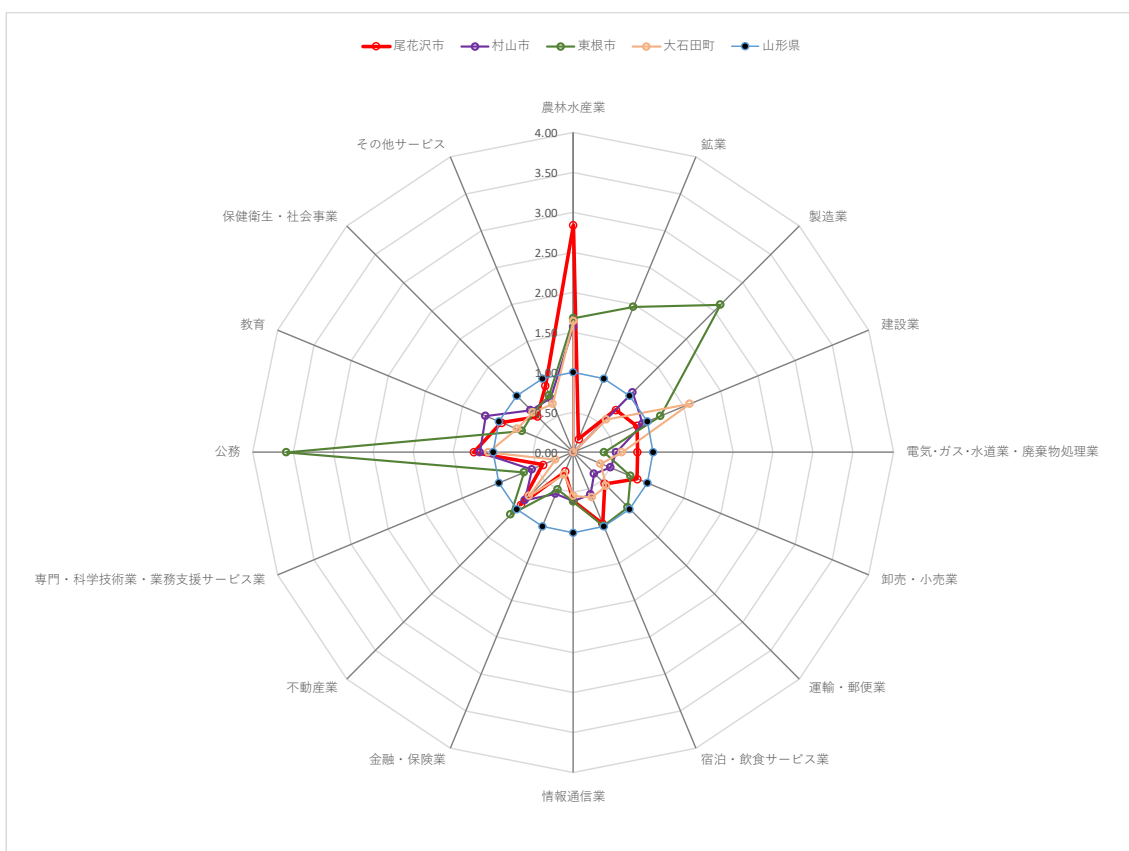


図 北村山圏4市町の産業分類別経済指数

(山形県全体を1とした場合)

(出典：市町村民経済計算(平成28年度 山形県企画振興部)を加工)